



UQ-KU Project

九州大学 研究教育交流拠点

UQ-KU Project Newsletter

2016年10月

クイーンズランド大学-九州大学研究教育交流プロジェクト

ニュースレター 10月号

Q²PEC 2016

クイーンズランド大学は、第2回 Q²PEC (Qshu-Queensland Program for English Communication) の一環として30名の九州大学工学部からの学生を受け入れました。九州大学の学生は8月29日から9月30日までの期間、クイーンズランド大学に滞在しました。

滞在中、クイーンズランド大学附属英語学校 (ICTE-UQ) において、工学部学生のために特別にカリキュラムが組まれた総合英語コースを受講しました。

この5週間の集中英語コースに加え、多くのラボラトリーを訪問し、博士号を取得したばかりの研究者や大学院生から話を聞きました。また、クイーンズランド大学機械鉱山学科の最終学年の学生のプレゼンを聴講する機会もありました。

プログラムには、エンジニアリング企業の管理職によるプレゼンや、オーストラリア屈指の研究機関であるオーストラリア連邦科学産業研究機構 (CSIRO) の訪問も含まれていました。

クイーンズランド大学附属英語学校 (ICTE-UQ) の Renee Winton 氏は、九州大学の他の学部からの学生に対しても同様にこのような特別プログラムを提供することが可能であると話しています。



UQ の工学部学生や UQ-KU プロジェクトスタッフとともにバーベキューを楽しむ Q²PEC 参加学生やスタッフ

UQ-KU 研究教育交流 プロジェクト

MAJIT 通訳フォーラム

野北和宏准教授は、日本語通訳・翻訳修士課程 (Master of Arts in Japanese Interpreting and Translation: MAJIT) を専攻する学生に向けて講演を行いました。MAJIT プログラムは、日本語・英語両言語において高いレベルの言語能力トレーニングを提供するとともに、通訳・翻訳における理論的かつ実践的スキルの習得を目指します。



野北准教授と MAJIT 通訳フォーラムの参加者

MAJIT 通訳フォーラムにおいて、野北准教授は UQ-KU プロジェクトに関し講演を行いました。当プロジェクトの発足の経緯や、両大学の強みなどが講演の中で触れられていました。さらに、野北准教授は九州大学とクイーンズランド大学との比較、特に各大学の学生数や外国人留学生の占める割合などを比較し、端的にお話しされました。

Q²PEC 訪問のお手伝い

Matthew Gear さん
博士課程学生

クイーンズランド大学(UQ) 機械鉱山学科
指導教授: 野北和宏 准教授 工学・建築・情報工学部、機械鉱山学科

私は UQ で野北准教授の指導のもと博士課程に在籍しており、その関係で、九州大学(KU)からの学生の訪問団を手伝う機会に恵まれました。私は UQ で行っている自分の研究について簡単に発表し、学生たちにマテリアルの実験室を案内しました。マテリアル工学の学生はそれほど多くなかったのですが、見学を楽しんでいただけではないかと思えます。もちろん、皆さんからたくさんの良い質問をいただきました。



プログラム中、KU 学生の日本での生活についてのプレゼンテーションを聞く機会をいただきました。内容が大変面白くて、自分も九州に行ってみたくなりました。皆さん英語のジョークまで交えていて、とても上手でした。その後 BBQ ランチがあり、皆でオーストラリア風の食事を楽しみながら、他の地元学生たちと会話を楽しんでいました。

私がこのようなプロジェクトに参加するのは、これで 2 年目ですが、毎回学生たちの英語力に感心します。私も同じように日本語を使えるようになりたいです。また、数日英語環境に浸るだけで、これほど皆さんの自信と能力が成長するということを見届けられるのは素晴らしいことです。UQ を離れる前に行われる最後の発表を楽しみにしています。

今年の 12 月、私は九州に行く予定です。KU の学生の皆さんから聞いた名所を回り、地元の料理を食べてみたいです。このプロジェクトで出会った皆さんと向こうで会えるかもしれません。それまで皆さんの勉強が順調に進むことを願っています。がんばって！

新型コロナ計画 Mobility Project: 2017 年九州大学 (KU)訪問

新型コロナ計画は、オーストラリア政府の重点的なイニシアチブの一つです。地域で学ぶオーストラリア人学生の留学や実習活動への支援を通じ、国内でインド太平洋地域への認識を高めることを目的としています。

その他、以下を目標としています。

- 本プログラムに参加する学生、大学、その他のステークホルダーのネットワークと連携し、オーストラリアと地域の人と人、また組織間の関係を強化すること。

- オーストラリア人学生にとってインド太平洋地域への留学が当然のこととなり、また、オーストラリアの地域全体で高く評価される営みになること。

- 地域に精通し、仕事で即戦力となり得るオーストラリア人卒業生をより多く輩出すること。

新型コロナ計画 Mobility Project の一環として、オーストラリア政府出資の、「Short Term Study in Japan (日本への短期留学)」がクイーンズランド大学(UQ)の機械鉱山学科において採択されました。本プロジェクトは、15 人の学部生に対し 2017 年半ばに日本への渡航機会を提供するものです。二週間日本に滞在し、KU で実際に 2 つの講義シリーズを受講します。

講義の内容は、日本の製造業を中心とした先端工学技術と日本語です。講義は 9 日間実施され、合計講義時間は 32.5 時間に及びます。九州経済連合会(KEF)と連携し、福岡県内の製造工場(トヨタ、三菱重工、新日鉄住金など)の見学も行います。

学生は、日本の産業の種類や規模についての知見を広げるとともに、教育機関の質やあり方について理解を深めることができます。講義は工学と日本語ともに、工学の専門家向けにカリキュラムが組まれており、地域に深い造詣を持つ優秀な KU の教授陣によって実施されます。主要な製造工場への現場見学と組み合わせることで、学生の地域への理解や、職業意識を高めることができます。学生たちは、現代日本を代表する質の高い教育と製造工場の運営に触れることができます。KEF は、日本の主要企業でのインターンシップの提供を通じた交流機会の拡大を視野に入れ、現地企業の参加を後押ししています。UQ 工学部学生の初めての KU への交換留学を通じ、本プロジェクトは学生の流動性を促進します。UQ の学生が KU の学

生と関係を深めることで、インフォーマルな学生流動化の好機にもなりえます。

クイーンズランド大学



穏かな湖のほとりに沿って歩いていると、心地よいうらかな春の香りに導かれ、幸福感が体の中から新鮮な響きとともに体を駆け巡る。湖の向こう側に見える Advanced Engineering Building は、工学、建築、自然の 3 要素を完璧なまでに調和させた最高傑作だ。ひときわ異彩を放つその建物は、一方で森林の中に静かにたたずむ日本の神社のようにひっそりと、しかし厳かに構えている。キャンパス内で伸び伸びと生い茂る木々の醸し出す、香り立つ野生がそう感じさせるので

ある。湖に反射する青天の輝きはまるでインスタグラムのフィルター加工のようだ。あたり一帯が見渡せるふかふかの芝生に腰掛け、週に一度の自分へのご褒美として買った学食の無駄に高いサンドイッチを取り出し、包みを開ける。緑、青、茶色に白といった色彩豊かな美しい自然の風景を眺めながら、そのおいしそうなおサンドイッチを口に運ぶ。一瞬視界がぶれ、気付けば両手はからっぽ。はて、どうしたものか、と見渡すが人の気配はなく、ただとなりでドケイ鳥が学生が捨てたであろう残飯を貪り食っている。しかし、よくみりゃこのやたら気色悪いトキ(アイビス)がその汚らしくちばしでつついてる食べ物の残骸は、まぎれもない、自分が今さっき買ったばかりのチキンサンドの成れの果てだ。そして、待ってましたばかりに次から次へとトキの大群が押し寄せてくるではないか。我も我もと、今度はとんでもなく不細工なターキーの家族までもがこの無惨な共食いランチパーティーに参加しようとたゆんだ顔面の黄色い皮を猛烈にぶらつかせながらこちらに向かって全力疾走してくる。仕方なく、わずかなランチの残りを食べるために場所を変えようと自転車を走らせる。ブリスベンの市内には、「シティ・サイクル」というレンタル自転車が街中の至る所に配置されており、安価な値段で利用できる。新鮮な空気を肌で感じながら自転車専用道路を走っていると、戦争で荒廃した国でなく、豊かな民主主義国家に生きているということがどれほど幸運なことか身に沁みる。そうやって静かに物思いにふけているのも束の間、突然ヘルメットの後頭部に衝撃を受け、その拍子に砂利道に体ごと放り出される。小さな白黒の鳥がひゅんと頭上を通り過ぎそのまま木にとまると、「どつきましたけど何か?」とでもいうかのようにこちらを見下ろしながらひょこひょこ頭をかしげてくる。この凶暴で人をイラッとさせるあつかましい態度の鳥をオーストラリアではマグパイと呼ぶ。

UQ への留学を検討中の UQ-KU プロジェクトの皆さんはご安心を。オーストラリア特有の凶暴な鳥類さえ避けることができれば、ブリスベンは非常に住み心地がいい。ただ、この多様な生態系に恵まれた当大学に通学する以上これらの空飛ぶ悪魔からの攻撃は避けて通ることはできない。他方で、私の知る多くの留学生は皆、UQ ほど美しいキャンパスをもつ大学を見たことがないと口をそろえる。私も同感だ。キャンパス内に生息する多種多様な動植物は自然の大切さ、尊さを肌で感じさせてくれる。私は日本語通訳・翻訳修士課程 (Master of Arts in Japanese Interpreting and Translation: MAJIT) に在籍しており、日々多くの課題をこなさなければならぬが、日々この自然豊かな UQ のキャンパスをフル活用している。UQ の自然環境は気持ちを落ち着かせる効果があるだけでなく、すばらしいひらめきをももたらしてくれる。大学施設には勉強に必要なツールが全てそろっており、教員陣は最高レベルの教育を提供してくれる。想像を超えたインスピレーションをえられる絶好の機会を一体誰が逃すだろうか。たしかに、オーストラリアが日本から学ぶことはたくさんある。しかし、その逆もまたしかりである。オーストラリアの強面なイグアナや食べられないターキー達だけでなく、かわいらしいガラ(モイロインコ)や美しい歌声のバラキート、そしてふわふわのポッサムなどぜひ見に来て欲しい。オーストラリアの大自然を肌で感じることも教育の一環なのだから。

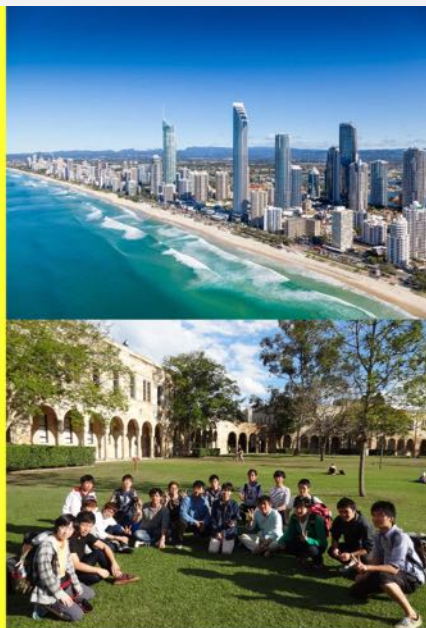
リリアン・レイ・マーロウ

Q²PEC

平成28年度 工学部(府)生向け海外研修

Q²PEC(Qshu-Queensland Program
for English Communication)

オーストラリア屈指のクイーンズランド大学にある付属語学学校ICTE-UQ (Institute of Continuing & TESOL Education)において、英語研修を受ける5週間のプログラムです。英語力向上に加えて、グローバルマインドや学位留学への意識涵養を目指します。



研修内容

午前: 英語カススキルアップのクラス

午後: 工学部学生のためのプレゼンスキル向上クラス、有識者の講演
UQ工学部の講義の聴講、研究室訪問、およびフィールドトリップ等

実施期間: H28年8月27日(土)～10月2日(日)

実施場所: クイーンズランド大学 ICTE-UQ、ブリスベン(豪)



募集人員: 20名

募集締切日: H28年5月31日(火)

対象者: 工学部・工学府の日本人学生

滞在先: ホームステイ(大学近くの一般家庭)

費用: 約50万円(要件を満たすものには、奨学金支給有)

プログラム説明会 (1時間程度)

第1回 H28年 4月25日(月) 17:00～

第2回 H28年 5月13日(金) 18:00～

会場: 総合学習プラザ第8講義室

<問い合わせ先>

工学系国際交流センターW4号館2階教務課内

担当: 水谷 Tel: 092-802-3870

E-mail: kooirose@jimu.kyushu-u.ac.jp

URL: <http://irose.kyushu-u.ac.jp/>



FOR MORE INFORMATION VISIT

<http://www.mechmining.uq.edu.au/uq-ku-project>